

教p315~ 回p257

世界分割と列強対立

アフリカの植民地化

19C後半… (英:リヴィングストン 米:スタンリー) の探検→列強の関心高まる
 ベルギーの (コンゴ) 領有をめぐる争い (1880年代前半)
 (ベルリン会議) (ベルリン=コンゴ会議) (1884~85) ←1878のベルリン会議と混同
 忠実な仲介者 (ビスマルク) の登場
 (コンゴ自由国) はベルギー王領 (国王:レオポルト2世) として承認
 分割のルールづくり… (実効支配) 原則→境界の画定と行政・治安機構の設立
 以後、ヨーロッパ列強の進出が激化 *しかし各地で抵抗運動激化

イギリス (縦断政策) … (3C) 政策の一環
 北から エジプト保護国化 (1882) … (マラバー) の乱を鎮圧
 スーダンに侵入→ (マフディー) 派の抵抗運動激化 (~1898) →鎮圧
 ハルツームの戦いで (ゴードン) 将軍を破る
 東アフリカ (現 ケニア) (1885)
 南から (ケープ植民地) …ウィーン会議で (蘭) 領から英領へ
 首相 (セシル・ローズ) (ボープ)
 (南アフリカ戦争) (1899~1902) …蘭人子孫 (ブール) 人との争い
 原因: 金や (ダイヤモンド) 発見
 結果: (オレンジ自由国・トランスヴァール共和国) 征服
 (ローデシア) 占領
 後にイギリス領 (南アフリカ連邦) として成立 (1910)

フランス (横断政策) …インド洋に進出
 (アルジェリア) (1830)・(チュニジア) (1881) をおさえて (サハラ) に進出
 仏領 (ジブチ) (1888)・(マダガスカル) (1896) と連結

英仏対立 (ファシダ事件) (1898) ←縦断の交点、 why?
 (イム) が譲歩→スーダンは (英) 領 } 以後、英仏接近 (英仏協約) (1904)

ドイツ (トゴ・カメルーン・南西アフリカ・東アフリカ(タンガニカ))
 ヴィルヘルム2世の世界政策→二度の (モロッコ事件)
 (タンジール) 事件 (1905) …翌年の (アルヘシラス) 会議で独主張を却下
 (アガデール) 事件 (1911) …独は仏領 (コンゴ) の一部を得て敗退
 結果: 英の支援を受けた仏の勝利→モロッコは仏の保護国 (1912)

イタリア エリトリア・ソマリランド→(エチオピア) 侵略→アドワの戦いで敗北
 伊土戦争→リビア (トリポリ・キナイカ) 獲得 (1912)

独立国 (エチオピア帝国・リベリア共和国) リベリアの首都は (モノロリア)
 列強は人為的に境界線を定め、交易網を破壊したので、その後の大きな障害となる

回p258~259

太平洋諸地域の分割

イギリス (オーストラリア) …自治領化 (1901)
 流刑植民地→金発見→移民増加→先住民 (アボリジニー) を追う
 (ニューゼaland) …自治領化 (1907)
 (マオリ) 人の抵抗を鎮圧 その他 (ニュージーランド) の一部
 ドイツ (ビスマルク・カロリン・マリアン・アリアナ・パオの各諸島)
 →第一次大戦後、(日本) の委任統治領
 アメリカ 米西戦争 (1898) → (フィリピン・グアム) 領有
 (ハワイ) 併合 (1898) …米入植者たちが (リリウオカラネ) 女王を廃位

教p319

ラテンアメリカ諸国の従属と抵抗

19C前半の独立後は、諸勢力の対立や軍部のクーデタなどで、混乱や対立が続く
 19C末になると欧米諸国の進出…アルゼンチン (牛肉)・ブラジル (コーヒー)・チリ (硝石)
 アメリカ合衆国の圧力
 (パンアメリカ) 会議 (1889) …「米大陸の連帯」の下に影響力拡大
 (米西戦争) (1898) 以後 (カリフォルニア) 政策や (根柢外交) を推進
 キューバ憲法に (プラット条項) →保護国化 (外交権を制約し、内政干渉権を得る)
 パナマを (コロンビア) から独立→運河建設→パナマ運河完成 (1914)

メキシコ

回p224 (フランス) (1867~72) ナポレオン3世の (メキシコ出兵) を排除
 (メキシコ) (1877~1911) 独裁化…米資本導入・鉱山開発などの近代化
 しかし、貧富の差拡大、農民の貧困化
 (メキシコ革命) (1910) … (マデロ・サハタ) がディアス打倒
 民主的憲法…政教分離・大統領制
 ブラジル…奴隷制廃止 (1888)、帝政から (共和政) へ移行 (1889)

